

整備効果① 地域活発化への支援

■企業立地の活性化

- ・圏央道・田園都市産業ゾーンに新たな先導モデル地区が誕生し、全体の開発面積は当初目標を約50ha上回る規模に。大きな経済波及効果が期待されます。

■田園都市産業ゾーン先導モデル地区(計9地区、全体の開発面積 約225ha) ※平成23年2月現在



■田園都市産業ゾーンの基本方針

○産業基盤づくりの目標量(H19～H24)

開発の全体面積: 約180ha
(当初目標)

<田園都市産業ゾーン>

圏央道沿線地域(インターチェンジ、ジャンクションから概ね5kmの範囲の地域)において工場や流通加工施設などを集積させるゾーン

<参考>

- 白岡菖蒲IC地区の菖蒲南部産業団地には、新たな企業の進出が決定し、地域産業の活性化が期待されます。



■白岡菖蒲IC地区



出典: 埼玉県HPより

■A社が白岡菖蒲IC地区を選定した理由

- ・白岡菖蒲IC地区は首都圏の1都7県をカバーする真ん中に位置し、圏央道の開通による優れたアクセス環境が、首都圏のマーケットを攻略する新拠点工場建設の決め手となりました。

※平成22年11月10日(水)のA社から聞き取り調査結果